

# 2018年度当会がん発見率



# がん検診の内容

当会では肺がんは胸部単純X線検査とCT検査、胃がんはバリウム造影検査および内視鏡検査、大腸がんは便の潜血反応検査と大腸内視鏡検査およびCT大腸内視鏡検査、子宮がんは超音波、擦過細胞診検査、乳がんはマンモグラフィや超音波検査およびMRI検査などでがん検診を行っています。

**要精密検査**として外部医療機関に**二次検査**を依頼し、返事を頂いた件数と、当会一番町健診クリニックにて二次検査を行った件数について解析しました。

二次検査は肺ではCTや気管支鏡検査、胃や大腸では内視鏡検査を行い、病理組織検査でがんと判明した例を解析しました。

# 2018年度がん発見率

			肺がん	胃がん		大腸がん	乳腺		子宮がん
				バリウム	内視鏡		マンモグラフィ	超音波	
実施件数	A		135,286	36,868	2,912	56,367	1,321	5,411	7,041
要精検数	B		1,308	777	66	3,007	86	285	655
要精検率( B/A )			0.97%	2.10%	2.27%	5.33%	6.51%	5.27%	0.90%
精検結果判明数	C	総数	573	382	10	776	12	20	32
	D	要精検数中の比率 ( C/B )	43.80%	49.16%	15.15%	25.81%	13.95%	7.02%	4.89%
		(外部医療機関)	371	251	9	630	12	20	32
		(一番町クリニック)	202	131	1	146	0	0	0
がん組織確定	E		12	6	1	11	0	0	1
報告数中癌発見率	F	E/C	2.09%	1.57%	1%	1.42%	0	0	6.50%
総受診者中の がん発見率	G	E/(A*D/100)	0.02%	0.03%	0.23%	0.08%	0.00%	0.00%	0.06%

# 結果

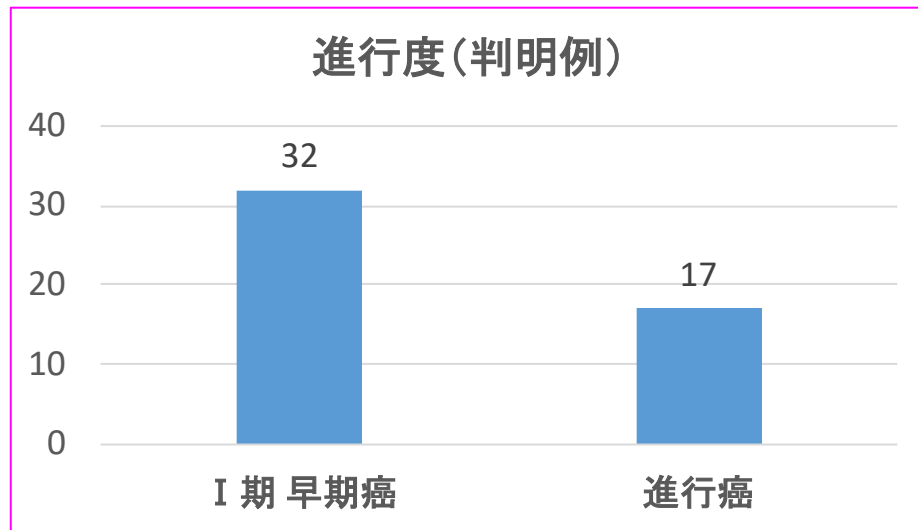
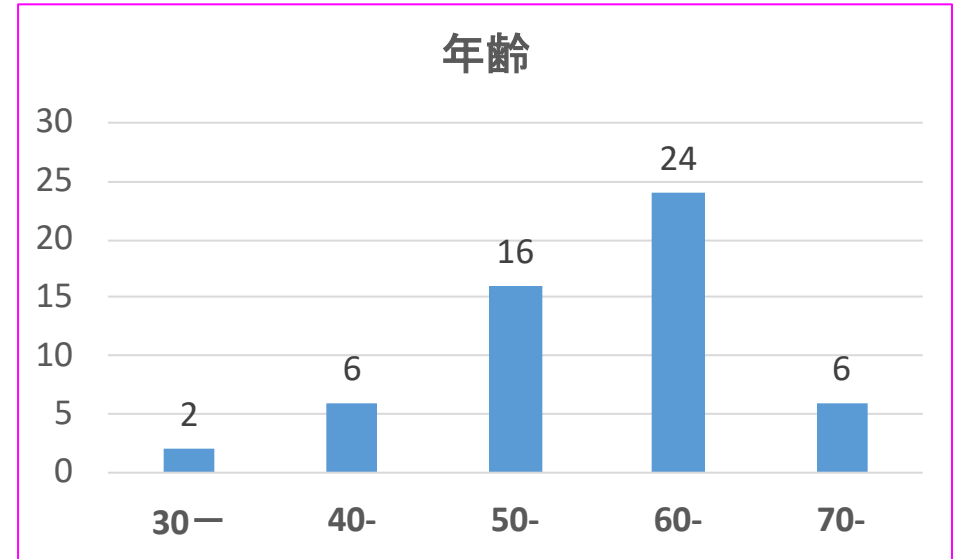
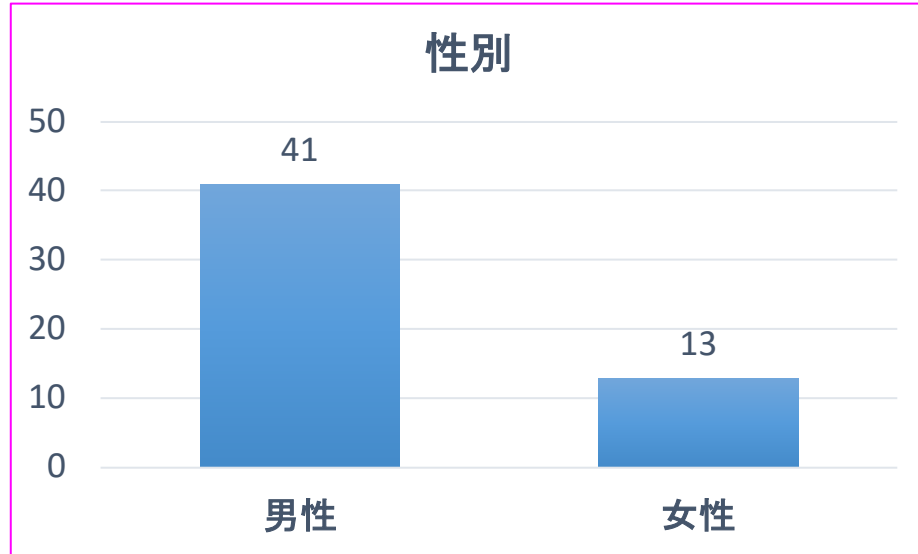
- 受診者数は肺13.5万人、胃3.7万人、大腸5.6万人、子宮0.7万人でした。
- 要精検率は肺1.0%、胃2.1%、大腸5.3%、子宮0.9%でした。
- そのうち結果が得られたのは5～49%でした。精密検査を受けない、あるいは受けても報告をいただけない方が大半でした。
- 肺がん12例、胃がん6例、大腸がん11例、子宮がん1例が発見されました。
- 結果判明率から補正して得られた総受診者中のがん発見率は肺がん0.02%、胃がん0.03%、大腸がん0.08%、子宮がん0.06%でした。

# 過去年度との比較(肺がん胸部単純X線検査)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
総数	129,519	135,875	135,178	135,285
要精検数	1,044	1,147	1,159	1,308
要精検率	0.8%	0.8%	0.9%	1.0%
結果判明数	421	425	672	573
がん確定数	16	11	15	12
がん発見率	0.03%	0.02%	0.02%	0.02%

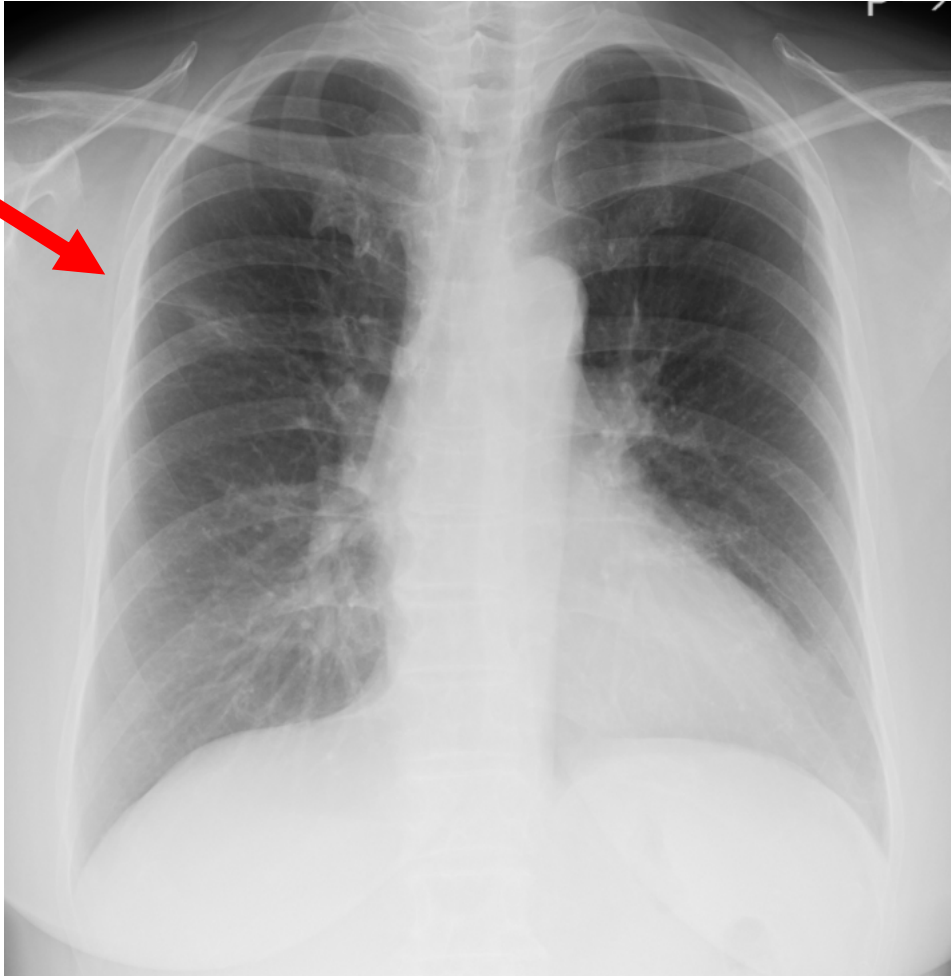
# 肺がん

## 2015-2018年度データの解析

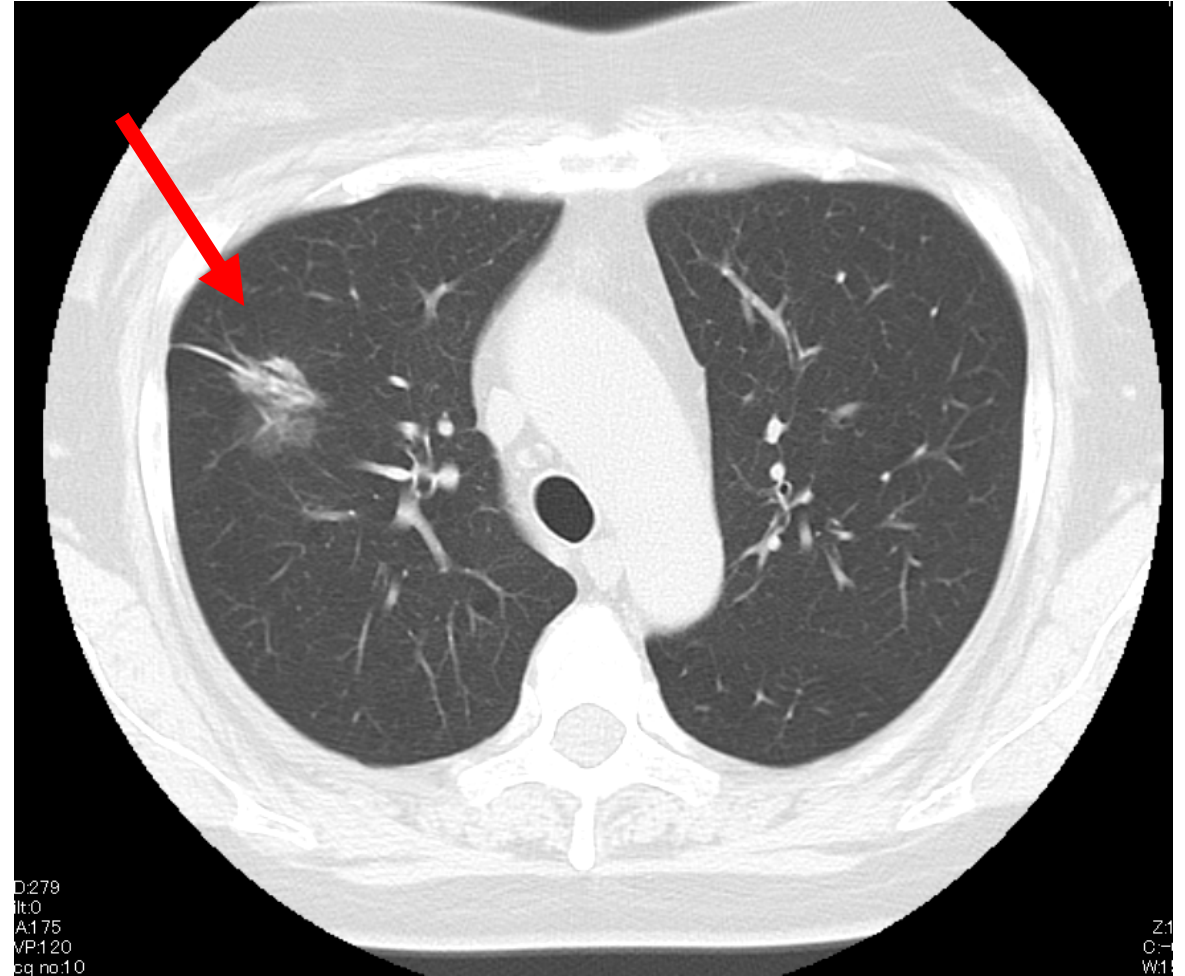


肺がんは男性に多く、**30歳代、40歳代の肺がん**の方もいらっしゃいました。多くが早期癌で発見されていますが、要精検とされたのに病院を受診せず、進行癌で再発見された人もおられました。

# 肺癌症例(56歳女性)



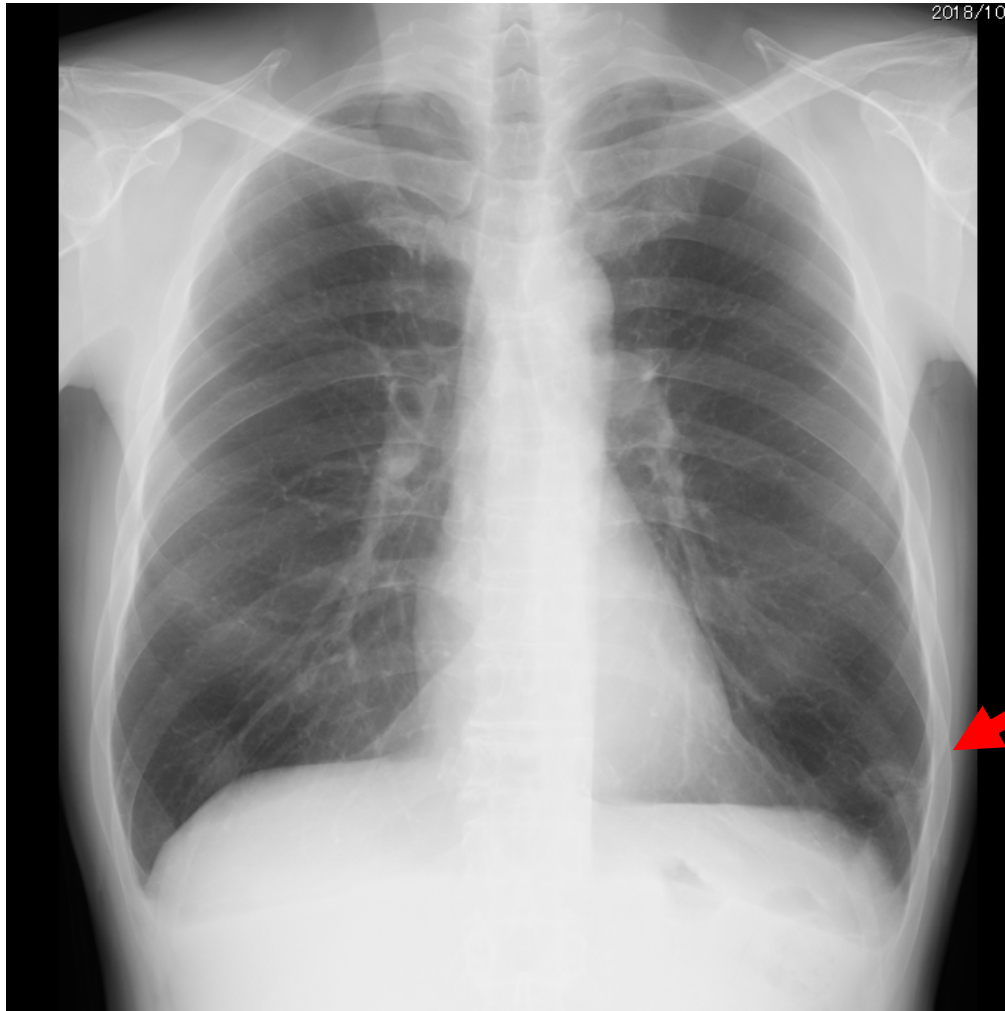
2018.5



2018.6 CT検査



# 肺癌症例(58歳男性)

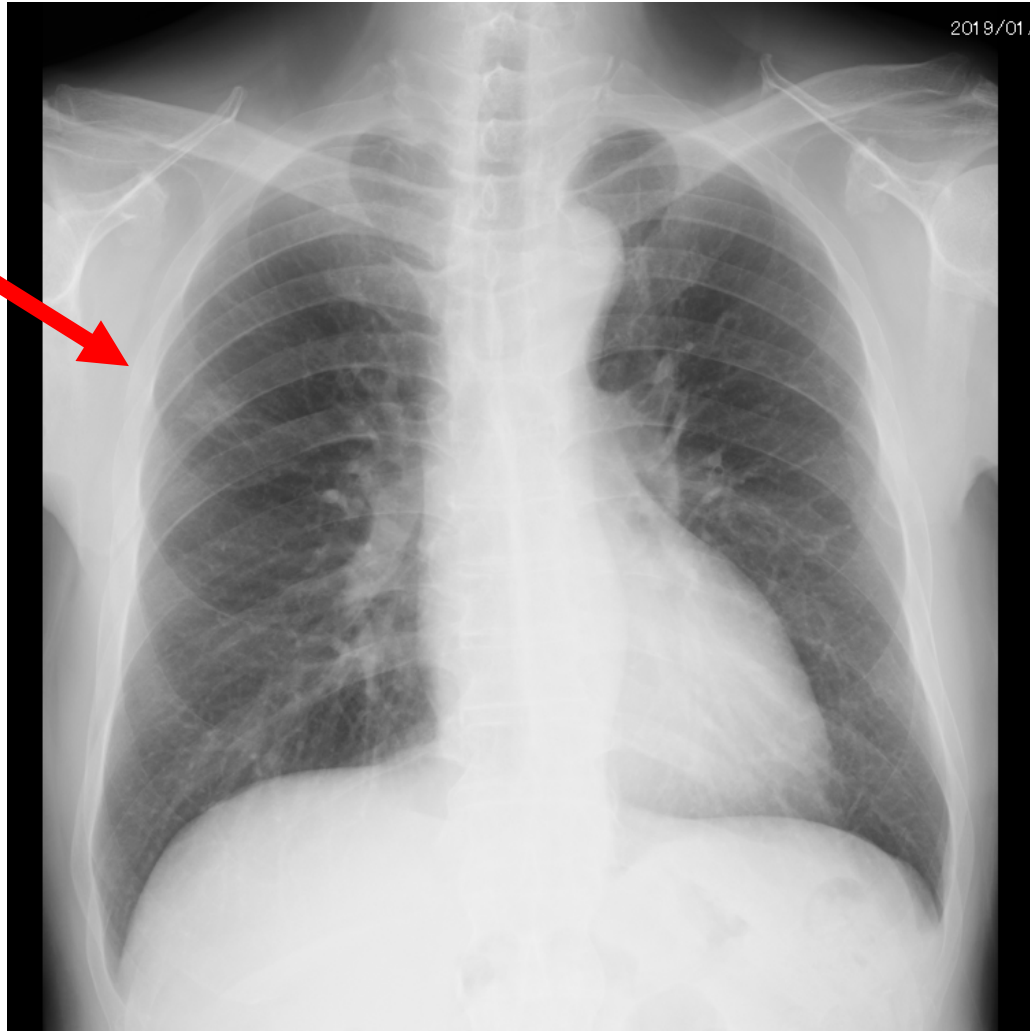


2018.10 指摘

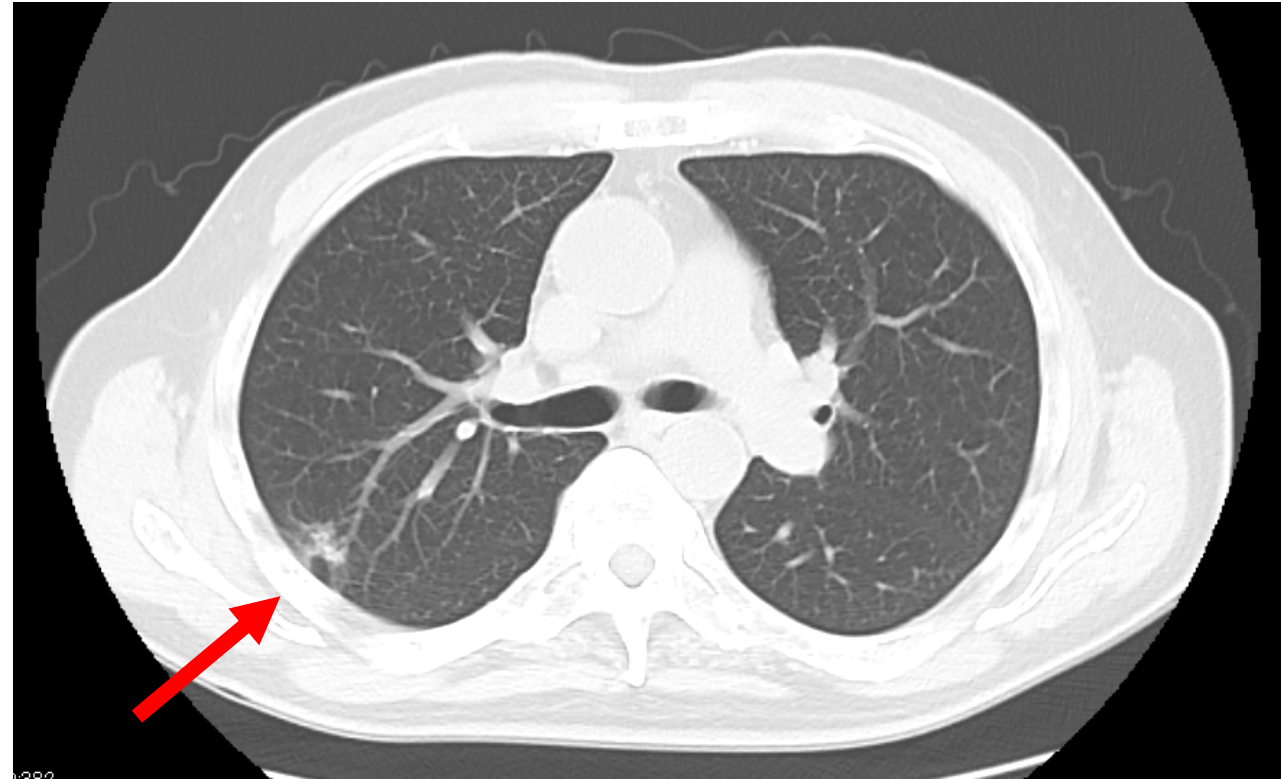


2019.8 CT検査

# 肺癌症例(74歳男性)



2019. 1



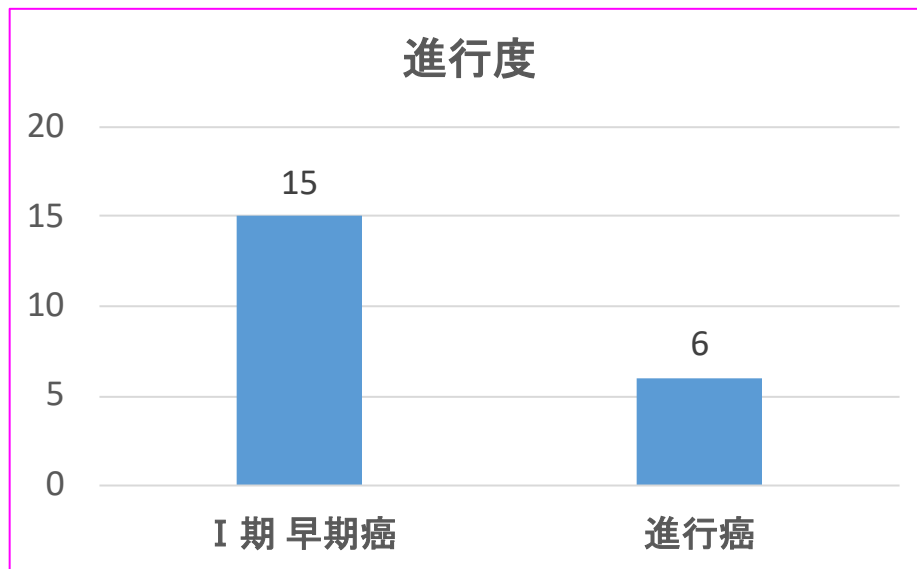
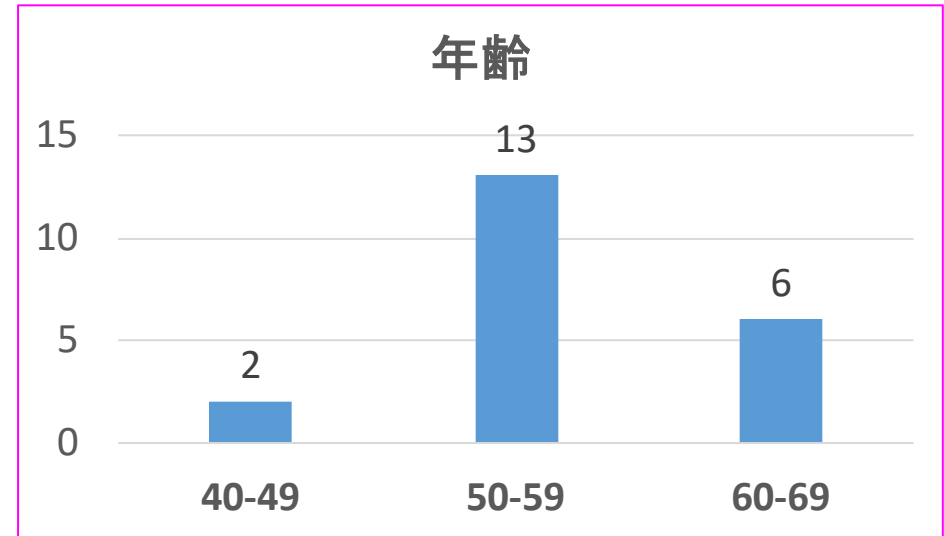
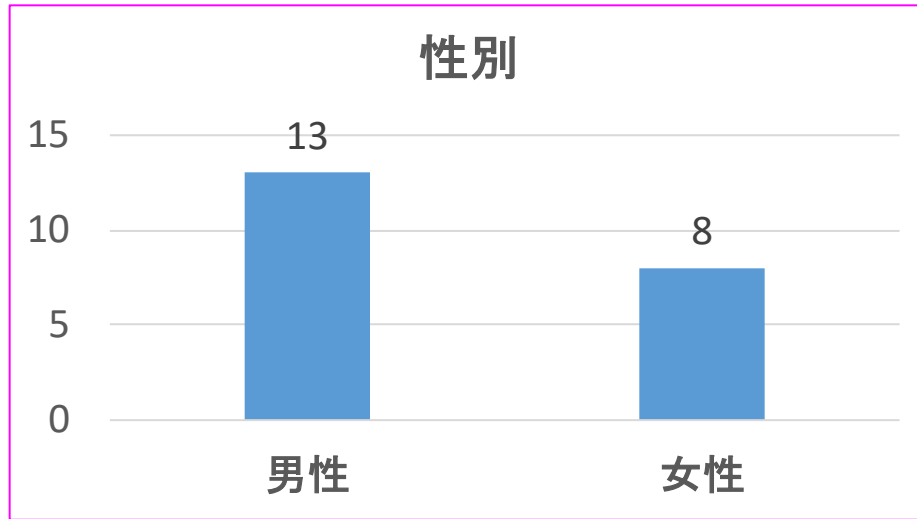
2019. 1 CT検査

# 過去年度との比較（胃がんX線検査）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
総数	35,543	41,127	38,058	36,868
要精検数	1,850	1,073	1,032	777
要精検率	5.2%	2.6%	2.7%	2.1%
結果判明数	488	355	484	382
がん確定数	7	4	4	6
がん発見率	0.08%	0.03%	0.02%	0.03%

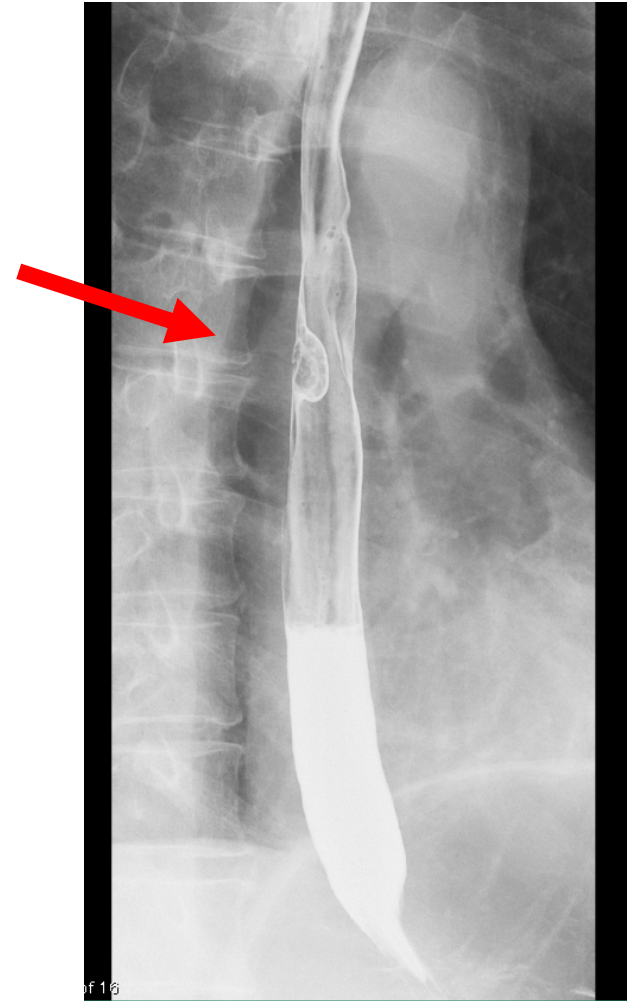
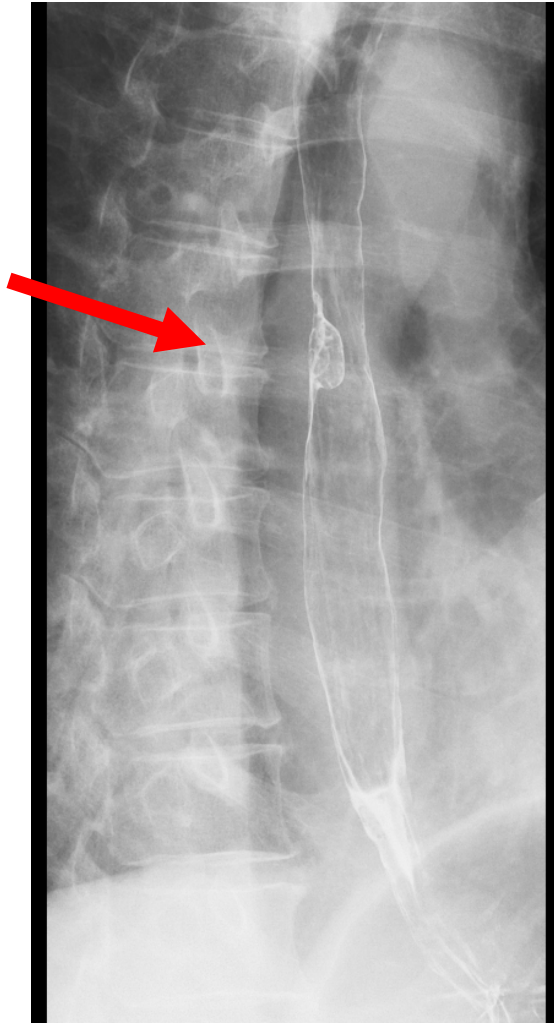
# 胃がん

## 2015-2018年度データの解析



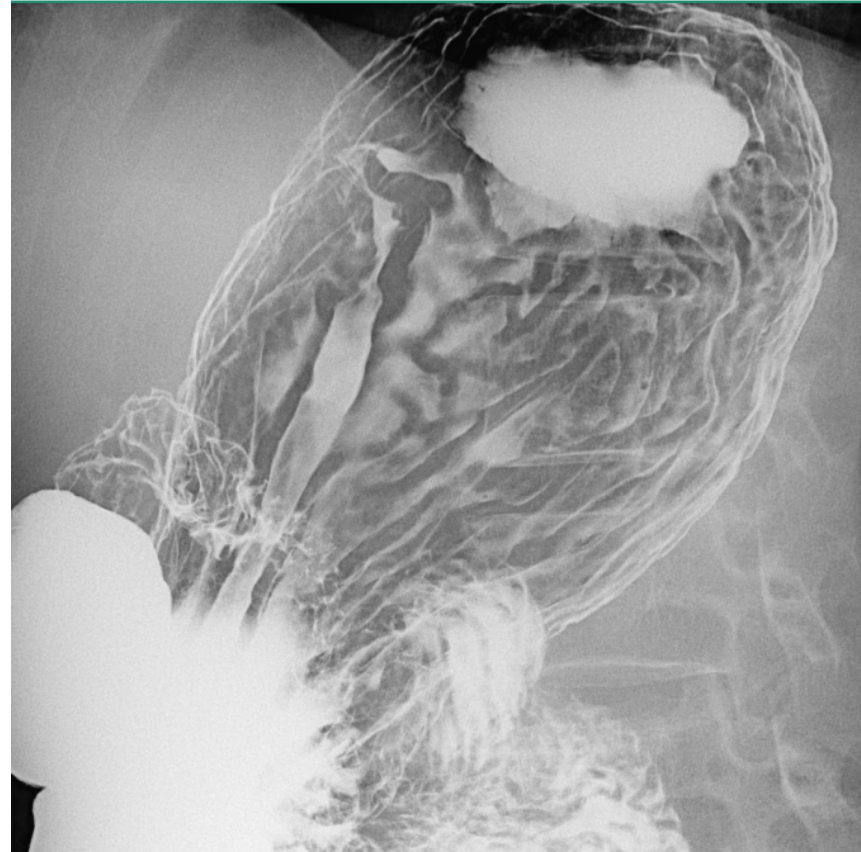
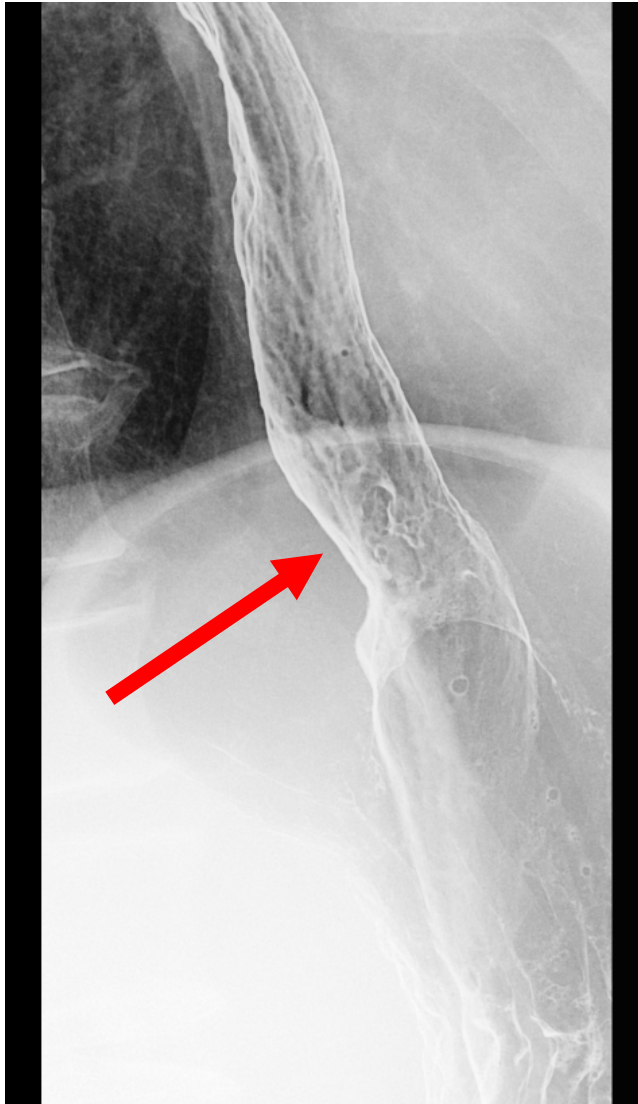
胃がんは男性に多く、**40歳代の胃癌**の方もいらっしゃいました。多くが**早期癌**で発見されていますが、**3年間受診せず進行癌**で発見された人もおられました。

# 食道癌症例(58歳男性)



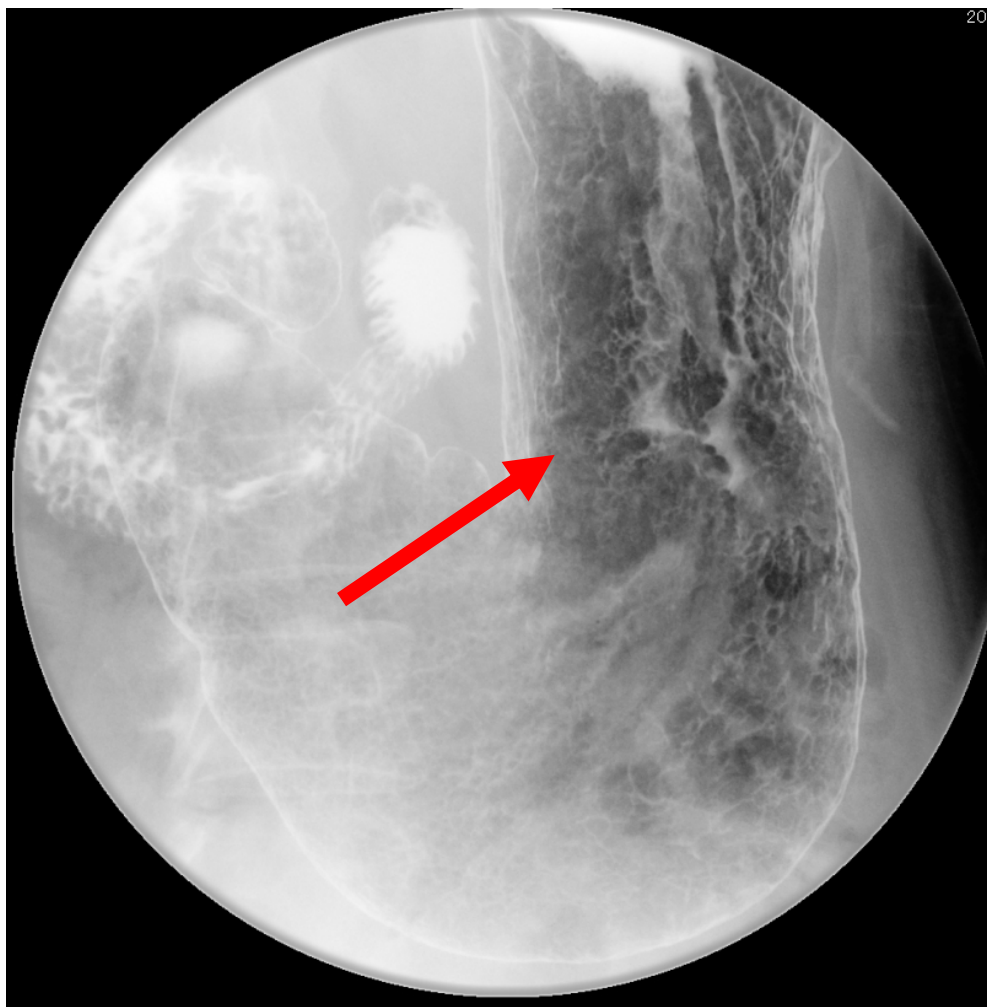
2018. 9

# 胃噴門部癌症例(56歳女性)



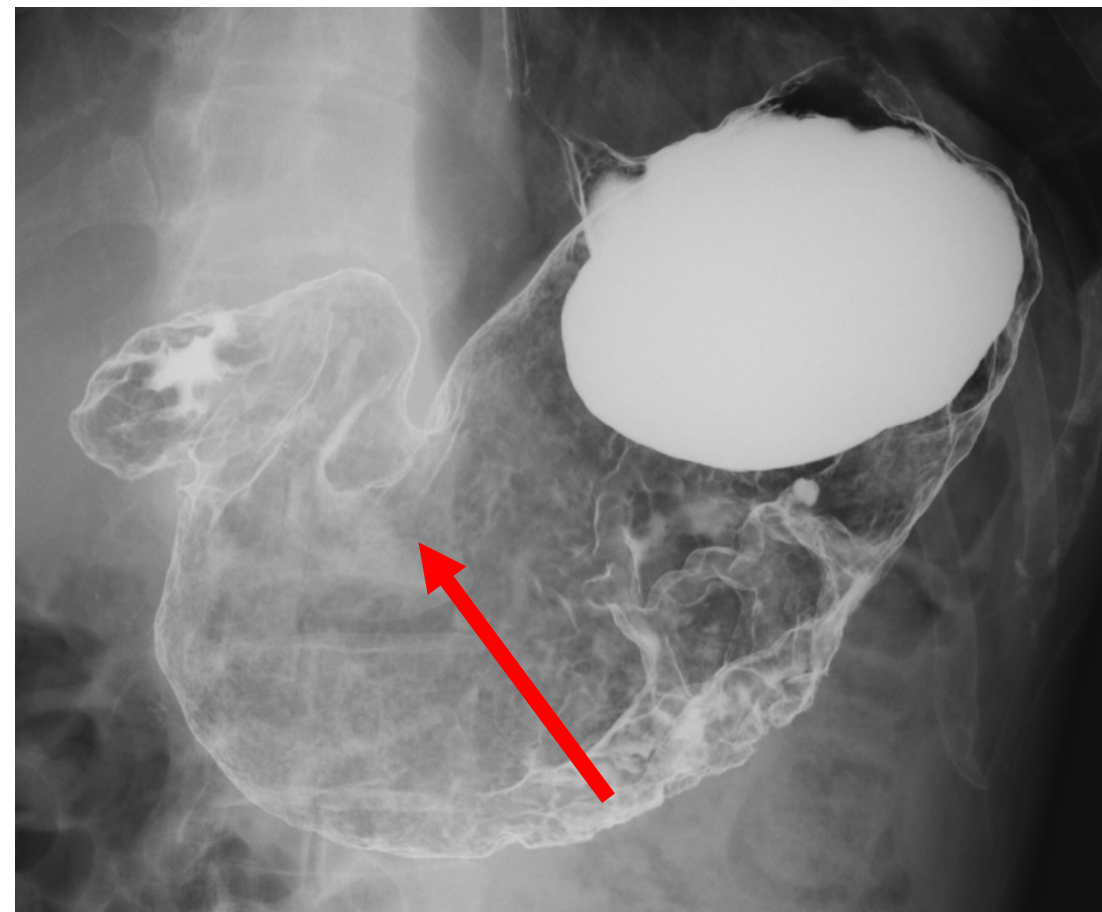
2018. 8

# 胃癌症例(49歳女性)



2019. 1

# 胃癌症例(58歳男性)



2018. 4

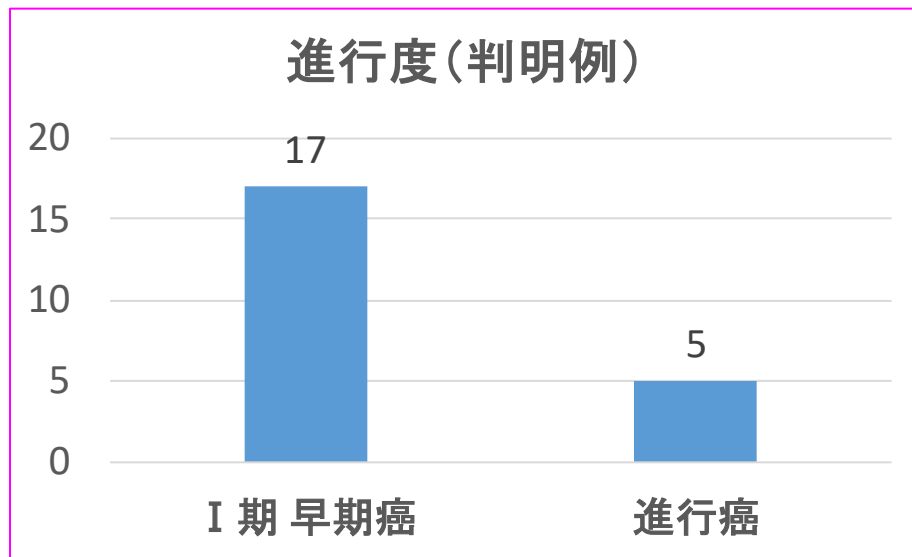
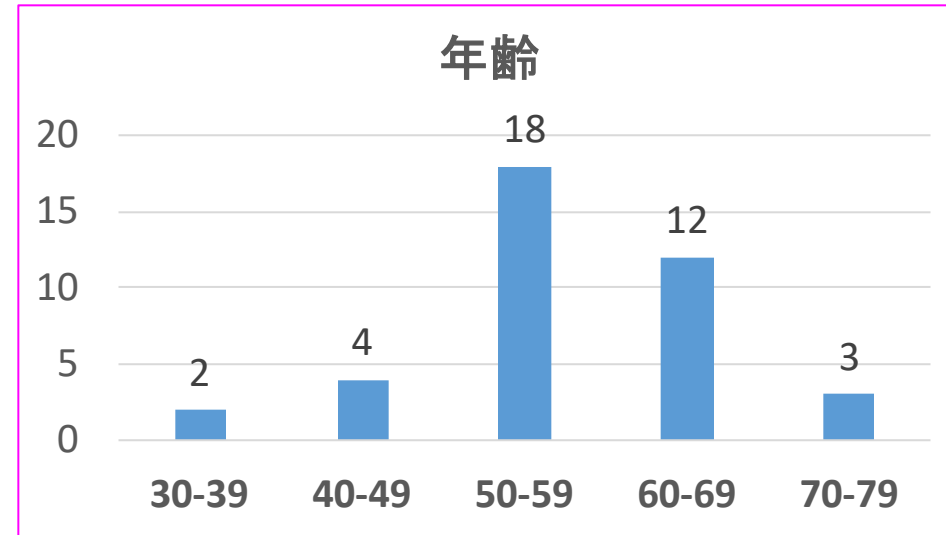
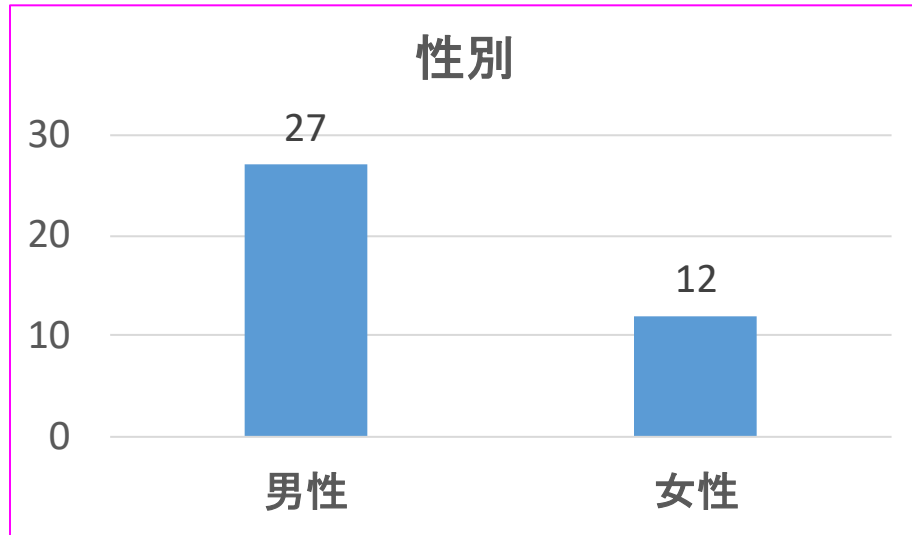


# 過去年度との比較(大腸癌便潜血検査)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
総数	44,132	49,920	51,226	56,367
要精検数	2,712	2,938	3,446	3,007
要精検率	6.1%	5.9%	6.7%	5.3%
結果判明数	275	616	1,152	776
がん確定数	8	7	13	11
がん発見率	0.18%	0.07%	0.08%	0.08%

# 大腸がん

## 2015-2018年度データの解析



大腸癌は男性に多く、**30歳代の大腸癌**の方もおられました。多くが早期癌で発見されています。

# まとめ

- **要精密検査の約1～2%**の方に肺がん、胃がん、大腸がんが発見されています。
- 精密検査を指摘されたのに放置している方が多数います。**必ず精密検査を受けて下さい！**
- 肺がん、大腸がんは30歳代また胃がんは40歳代にもがんが発見されています。少なくとも**40歳からがん検診**は必ず受けましょう。
- 検診で大半は早期癌で発見されています。
- 数年検診をスキップした間に進行癌になった方もおられます。がん検診は**毎年必ず受診**して下さい。

## お願い

- 早期で発見されたがんは治ります。また、職場復帰も容易です！
- がん検診は毎年受けて、要精密検査と判定されたら、必ず精密検査を受けて下さい！